

# 発掘成果をふりかえって 2013

<http://www.kyoto-arc.or.jp>  
(公財) 京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



1 方広寺大仏殿跡 東山区正面通大和大路東入茶屋町

大仏殿の基壇東辺を確認した。豊田秀頼が大仏殿を再建した時に基壇全体を拡大していた。礎石据付穴のひとつは一辺約4mの方形で深さは1mあり、拳大の石が大量に詰められていた。掘り直された痕跡がなく、創建期の礎石をそのまま使ったとみられる。



発掘調査の位置



2 烏丸御池遺跡 中京区新町通三条下る三条町

弥生時代から古墳時代の集落跡である烏丸御池遺跡で、京都盆地内で最古と思われる弥生土器が土坑から出土した。土坑は地表下約3mで検出され、焼けたイノシシの骨も出土した。



3 西京極遺跡 右京区西院月双町

古墳時代の竪穴建物、掘立柱建物のほか柱列や素文鏡など多数の遺構・遺物を発見した。竪穴建物では造り付け竈が見つかった。



4 長岡京左京三条四坊六町跡 伏見区久我西出町

長岡京期の掘立柱建物4棟、柱列2条、溝3条を検出した。建物は六町の宅地内の北西部に整然と配置されていた。



5 平安京右京三条三坊三町跡 中京区西ノ京桑原町

平安時代の井戸を検出した。井戸枠と水溜の上下2段構造で、平安時代前期に埋没したものである。



6 上京遺跡 上京区今出川通室町西入堀出シ町

上京区総合庁舎予定地で、元和6年(1620)の火災後の処理穴から炭や焼土とともに多量のさまざまな陶磁器類が出土した。



7 北野天満宮・史跡御土居 上京区馬喰町

北野天満宮敷地内にある御土居の調査で、花崗岩製の切石組暗渠を確認した。境内を雨水の流入から守るためのものと考えられる。



8 御土居跡 下京区小稲荷町

江戸時代に付け替えられた御土居の土塁基部を検出した。御土居の南東部に当たる地点で、堀はともなわず土塁のみであった。